

# (仮称) 新潟市アイスアリーナ基本計画

平成23年11月  
新 潟 市

## 目 次

はじめに.....	1
第1章 背景.....	2
1. 新潟市における体育施設の現状.....	2
2. アイスリンクの必要性.....	4
第2章 基本的な考え方.....	10
1. 整備の目的.....	10
2. 基本理念.....	10
第3章 整備予定地の概要.....	14
1. 位置.....	14
2. 交通アクセス.....	14
3. 周辺状況.....	15
第4章 営業形態と提供するサービス.....	17
1. 営業形態.....	17
2. 提供するサービス.....	19
第5章 施設の構成と機能.....	22
1. ゾーニングと動線.....	22
2. 屋内施設計画.....	24
3. 屋外施設計画.....	30
第6章 整備及び管理・運営手法.....	31
1. 整備手法.....	31
2. 維持管理・運営手法.....	34

資料1 .....	35
資料2 .....	44
資料3 .....	45
資料4 .....	46
資料5 .....	47
資料6 .....	48

## はじめに

本市は、昭和 43 年 10 月に「スポーツと音楽都市宣言」を行い、日本一の参加規模を誇る早起き野球大会や新潟シティマラソンの実施、スポーツ振興会の設立による地域スポーツの振興、さらには各種体育施設の整備など、子どもから高齢者までがいつでもどこでも楽しめるスポーツ環境の充実を図ってきました。

また、サッカーの「2002 F I F A ワールドカップ™」の開催、アルビレックス新潟の J1 定着、野球では新潟アルビレックス B C の発足や日本文理高校の夏の甲子園大会準優勝、バスケットボールでも新潟アルビレックスが b j リーグで活躍しています。さらに、平成 21 年に本市も会場となって行われた国民体育大会での新潟県選手団の総合優勝、平成 24 年度に控えた全国高校総体（インターハイ）の開催などにより、市民のスポーツに対する関心、意識や行動に大きな変化が生まれています。

一方、社会・生活環境の急激な変化による、少子高齢化や子どもの体力低下、生活習慣病の増加なども大きな課題となっており、スポーツの果たす役割は、今後ますます重要になっています。

このような背景の中で、本市にかつて開設されていた民営のアイスリンクが平成 15 年に閉鎖して以来、市内および近隣に氷上スポーツを行うことができる施設が存在せず、市民からもその整備を望む声が多く寄せられていました。

本市では当初、市の支援も含めた民間事業者による開設などを模索していましたが、公設による整備の可能性についても検討を行い、市が施設整備を行い、運営は民間が行うことで民間活力の導入を図る公設民営型での開設が最も有効であるという結論に至り、市民の皆さんの健康増進と、氷上スポーツの普及・振興を主な目的とした、(仮称)新潟市アイスアリーナの整備を行うこととしました。

施設の整備にあたり、本市のアイスリンクとして望ましい在り方を整理するために、国内の類似施設調査や競技団体の利用ニーズ調査を実施し、(仮称)新潟市アイスアリーナのあり方に関する有識者会議の場で有識者、競技団体から専門的な意見を聴取しながら、施設の理念や機能を検討し、この基本計画を策定しました。

## 第1章 背景

### 1. 新潟市における体育施設の現状

本市には現在、陸上競技場や体育館、プールをはじめとし、トレーニング室やトリムコースなどの基礎的な体力づくりを行う施設から、フットサル、クライミング、乗馬などの多様なニーズに対応するものまで、市が設置した体育施設が全 17 種類 151 施設あります。

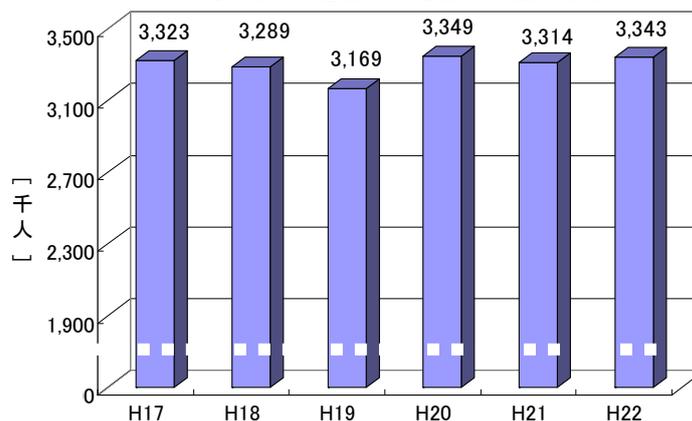
最も施設数が多い体育施設は野球場（27 施設）で、次いでテニスコート（25 施設）となっています。これらに多目的広場、ゲートボール場、球技場を合わせると 86 施設となり、全体の半数を超えていますが、冬季は屋外での活動を主とするこれらの施設の多くが利用休止となり、市民が利用できないという現状にあります。

本市における種別別体育施設数

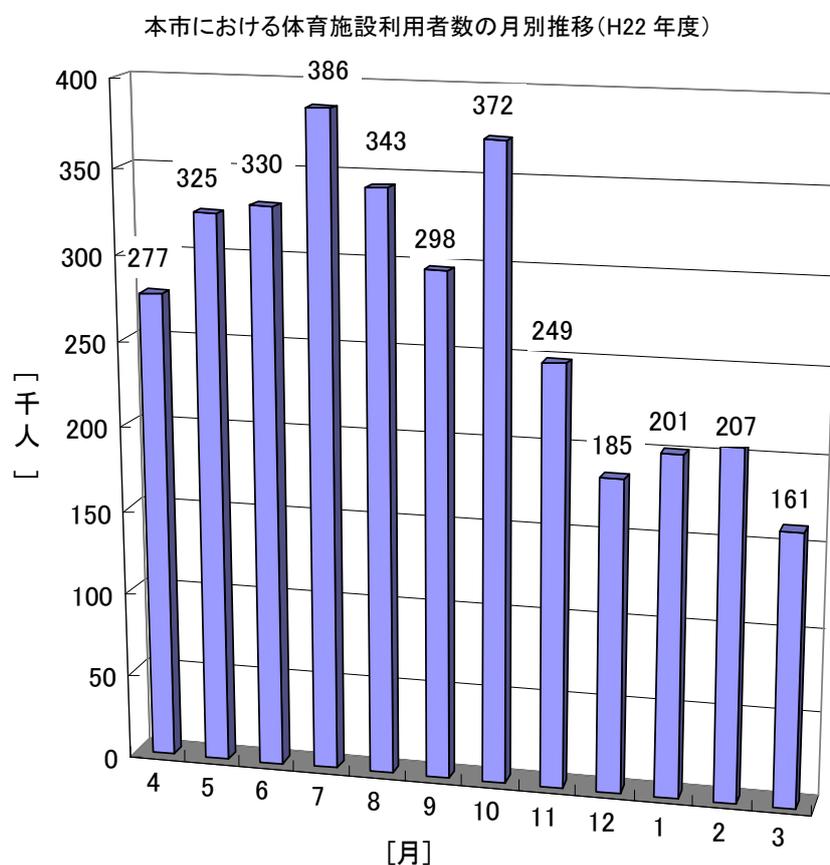
陸上競技場	2 施設	野球場	27 施設	トリムコース	5 施設
体育館	20 施設	ソフトボール場	1 施設	フットサルコート	2 施設
屋内プール	9 施設	テニスコート	25 施設	馬場	1 施設
屋外プール	2 施設	多目的広場	17 施設	クライミングルーム	1 施設
トレーニング室	12 施設	ゲートボール場	14 施設	アーチェリー場	1 施設
武道館	9 施設	球技場	3 施設	合計	17 種類 151 施設

本市における体育施設の年間利用者数の推移をみると、平成 19 年度は施設改修の影響などで約 317 万人と 320 万人を下回っていますが、その他の年度は 330 万人前後の高い水準を保っており、平成 22 年度にいたっては、約 334 万人の市民によって体育施設が利用されています。

本市における体育施設利用者数の年度別推移



平成 22 年度の体育施設利用者数の月別推移をみると、4 月から 10 月までは月間 28 万人から 39 万人の利用がありました。11 月の 25 万人を境に、12 月から 3 月にかけての利用者数は、16 万人から 21 万人となっており、冬季においては体育施設の利用が激減します。



本市では、市民ニーズに対応して多様な体育施設を整備してきましたが、上記のように冬季において体育施設の利用が減少する主な要因は、ウィンタースポーツを行うことができる施設が無く、冬季に休止する屋外施設が多いことが挙げられます。

このような中で、本市が平成 20 年度に実施した調査<sup>1</sup>において、スポーツの普及・振興のため今後本市に力を入れてほしいこととして、スポーツ施設の整備が 38.8% で第 1 位、冬期間のスポーツ環境の充実が 34.2% で第 2 位となり、市民の冬季のスポーツ環境の充実に対する要望が高いことがうかがえました。

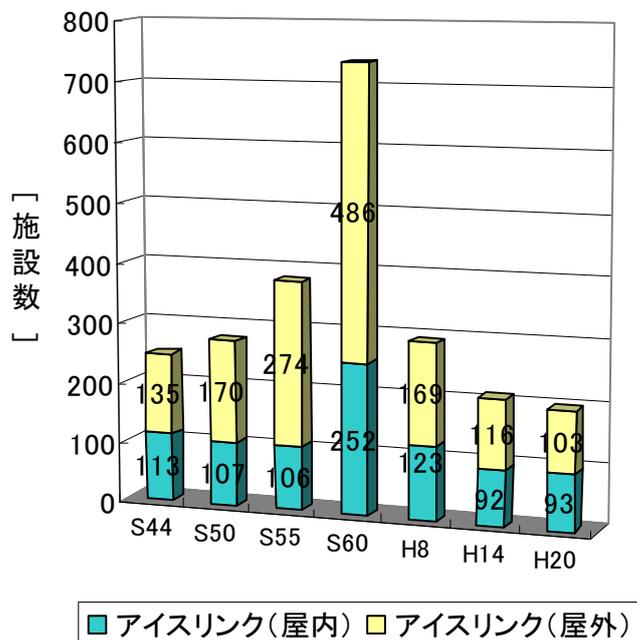
<sup>1</sup> 平成 20 年度スポーツに関する市民意識調査 調査結果報告書

## 2. アイスリンクの必要性

### (1) 全国におけるアイスリンクの現状

全国におけるアイスリンク設置数は、高度経済成長期に大きく増加し、昭和60年には、屋内アイスリンク 252 箇所、屋外アイスリンク 486 箇所が存在しました。しかしながら、その時期をピークにアイスリンク施設数は大幅に減少し、平成20年度調査時には、屋内アイスリンク 93 箇所、屋外アイスリンク 103 箇所となり、全国的に多くのアイスリンクが閉鎖されたことがわかります。

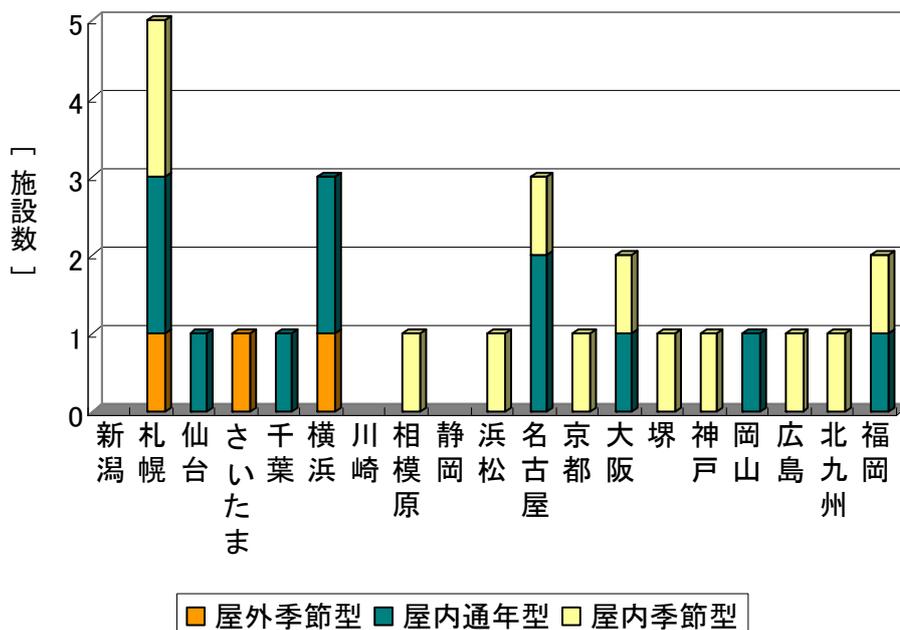
全国におけるアイスリンク設置数の推移



(参考: 体育・スポーツ施設現況調査、文部科学省)

人口規模が大きく、高度な都市機能が集中する政令指定都市におけるアイスリンクの設置状況をみると、市内にアイスリンクを有しない都市は本市と川崎市と静岡市の3市だけとなっています。さらに、半径50km圏内の近接地にもアイスリンクが開設されていない政令指定都市は、本市と静岡市だけとなっています。

政令指定都市におけるアイスリンク設置数



※ 施設内に屋外、屋内施設がある場合はそれぞれカウントしている。  
 (参考:平成 23 年 1 月財団法人日本スケート連盟HP)

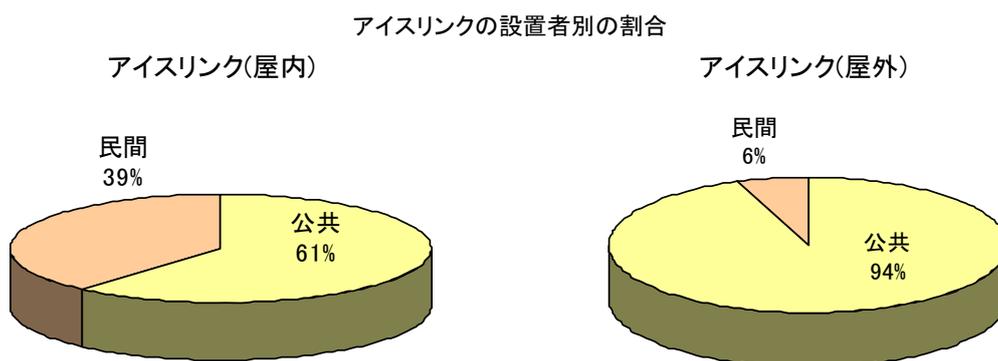
一方で、フィギュアスケートとスピードスケートの競技団体である「財団法人日本スケート連盟」によると、競技に参加する連盟登録者数は年々増加傾向にあり、平成 17 年度の 5,470 人から平成 21 年度には 6,506 人に増加しています。特にフィギュアスケートにおける競技者数は、日本人選手の冬季五輪での金メダル獲得や世界選手権での優勝も影響し、平成 17 年度の 2,990 人から平成 21 年度の 4,347 人まで 45%も増加するなど、伸びが顕著にみられます。

また、全国の類似施設に対して行った調査<sup>2</sup>では、競技者等による 8 月の専用利用は、調査した全ての施設においてほとんど予約で埋まっている状況が確認されました。

このように、アイスリンク施設数は減少しているものの競技者数は増加しており、アイスリンクを取り巻く環境においては需要と供給のバランスが崩れ、全国的に新しいアイスリンクを設置することが求められていると予想されます。

<sup>2</sup> 「資料 1 類似施設調査一覧表」の作成に際して確認

施設の設置者別の割合をみると、公共スポーツ施設として都道府県や市町村が開設したものが多く、その多くは指定管理者制度を利用して民間が運営を行う公設民営型の施設となっています。これは、民間が開設した場合に施設や設備投資への負担が大きく経営を圧迫する要因となりやすいが、公共が施設を設置し、運営は民間のノウハウを活用して効果的・効率的に行うという手法を採ることが、継続的な氷上スポーツの普及、振興や市民の健康増進に有効という地方公共団体の考え方によるものと思われます。



(参考: 体育・スポーツ施設現況調査、文部科学省)

## (2) 本市におけるアイスリンク設置検討の経緯

昭和 49 年 9 月に開設された季節型の新潟アイスリンクが平成 15 年 5 月に閉鎖されたことにより、本市および半径 50 k m 圏内の近接地には現在、アイスリンクは存在していません。しかしながら、閉鎖当初よりアイスリンクの復活を望む市民の声は多く、平成 15 年 8 月と 16 年 6 月には、合わせて 13 万 5 千人分の署名が市長に提出されました。また、平成 16 年と 17 年には、本市議会においてもスケート競技の環境整備と、全ての市民が気軽に利用できるスケート場の建設に関する請願が採択されました。

このような市民の声に対し、平成 19 年に民間事業者等に対してアイスリンク設置プランの募集を行い、市の支援を含めた民設プランの提案を求めましたが、全ての提案において「民設では採算面で厳しいため、公設民営で行うべきである」という意見が確認されました。

その後、平成 20 年に実施したアンケート<sup>3</sup>においても、冬季のスポーツ環境の充

<sup>3</sup> 平成 20 年度スポーツに関する市民意識調査 調査結果報告書

実を望む市民が多いことが確認されました。さらに、平成 21 年に実施した本市におけるアイスリンクの立地可能性調査<sup>4</sup>では、アイスリンクの運営ノウハウを有する民間事業者に調査を委託し、公設民営による施設整備が可能であるという結果を得ました。

また、平成 23 年度にはスポーツ、教育、設計、観光など関連する分野の有識者や競技団体の代表から専門的な意見をうかがう(仮称)新潟市アイスアリーナのあり方に関する有識者会議を開催しました。

本市におけるアイスリンク設置検討に係る経緯

平成 15	新潟アイスリンク閉鎖 スケート場の整備を望む 7 万 5 千人分の署名が提出される
平成 16	上記同様の 6 万人分の署名が提出される
平成 19	民間事業者によるアイスリンク設置プラン募集
平成 20	スポーツに関する市民意識調査実施
平成 21	アイスリンク立地可能性調査実施
平成 23	(仮称)新潟市アイスアリーナのあり方に関する有識者会議開催

(3) アイスリンクの整備に期待される効果

本市においてアイスリンクを整備することにより、市民の多様なスポーツニーズに応えることができ、さらに、冬季のスポーツ環境を充実し市民の健康増進を図ることができます。

市民が、レジャー感覚でアイススケートをより身近のものとするところのほか、通年型のアイスリンクを整備することで、現在は柏崎市や上越市の季節型の施設や県外の施設まで練習環境を求めている市内の競技者を支え、さらなる競技人口の増加、競技力の向上を見込むこともできます。

さらには、日本海側の拠点施設として、氷上スポーツの普及、振興を図ることで、スポーツ文化の醸成や合宿や競技会の開催による市外からの交流人口の拡大も期待することができます。

---

<sup>4</sup> 新潟市におけるアイスリンク立地可能性調査、平成 21 年 12 月

#### (4) 行政計画との関連

本市は、平成18年3月に「新潟市スポーツ振興基本計画（「スポ柳都にいがた」プラン）」<sup>5</sup>の策定を行い、市民ニーズにより的確に対応し、市民のだれもが、いつでも、どこでも、いつまでも、だれとでもスポーツに親しみ、楽しむことができる「スポーツに満ちた明るく豊かな新潟市」の実現を目指しています。

この計画では、健康スポーツ（生涯にわたるスポーツ活動の推進）、競技スポーツ（競技力の向上の推進）、みるスポーツ（みる機会・交流機会の拡大）、支えるスポーツ（住民主体のスポーツを支える組織の構築）の4つを基本方針としており、本市はこれらをもとに各種のスポーツ振興事業を実施しています。

健康スポーツにおいては、生涯に渡り、全ての市民が、いつでも、どこでもスポーツができるよう、スポーツ活動を推進することを基本方針としています。また、目標の一つに、身近な地域のスポーツ環境を整備し、運営を改善することを掲げています。

競技スポーツにおいては、競技力の推進を基本方針とし、小中高校生を主体とした一貫指導体制の構築や、選手、指導者への支援体制の充実などを目標に掲げています。

みるスポーツにおいては、みる機会、交流する機会の拡大を図り、そこで得る感動と興奮を共有し、健康で豊かなスポーツ環境を促進することを目標に掲げています。

支えるスポーツにおいては、住民主体のスポーツを支える組織を構築し、貴重な人的資源を有効に活用するとともに、新たなスポーツ施設の整備を目標に掲げています。

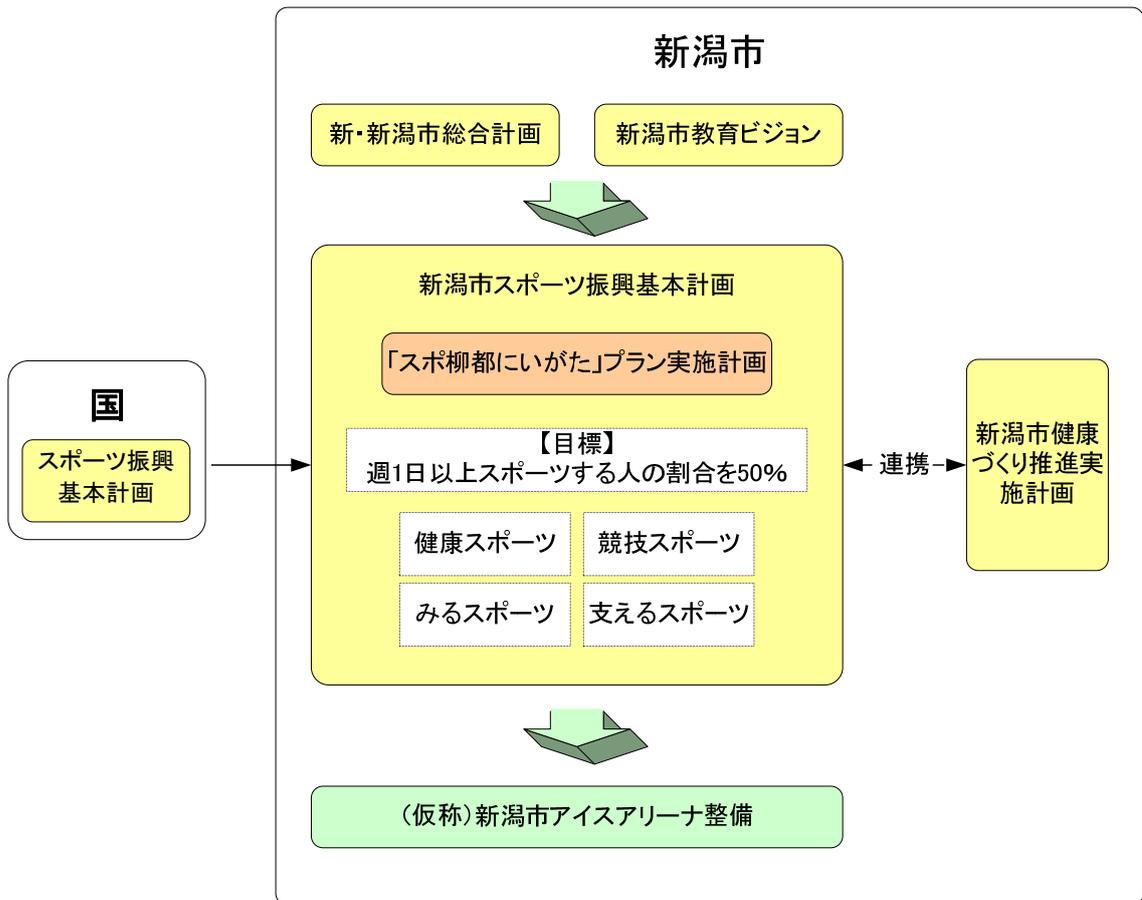
本市にアイスリンクを整備することは、「スポ柳都にいがた」プランの各目標の達成に貢献し、「スポーツに満ちた明るく豊かな新潟市」の実現を促進することにつながります。

なお、「スポ柳都にいがた」プランは、本市の「新潟市健康づくり推進実施計画」とも連携しています。また、本プランは「新潟市教育ビジョン」及び「新・新潟市総合計画」を上位計画としており、国の「スポーツ振興基本計画」と整合性を図るものとなっています。

---

<sup>5</sup> 計画期間：平成18年度～平成26年度（前期：平成18年度～平成21年度、後期：平成22年度～平成26年度）

## 行政計画との関連



本章で述べた以上の事柄を踏まえ、冬季のスポーツ環境の充実が望まれる本市において、「スポ柳都にいがた」プランに基づき、(仮称)新潟市アイスアリーナを整備することとしました。これにより、アイスリンクの開設を望む多くの市民の声に対応することができ、また、市民の健康増進や交流人口の拡大、氷上競技の拠点としてのスポーツ文化の醸成なども図ることができると予想されます。

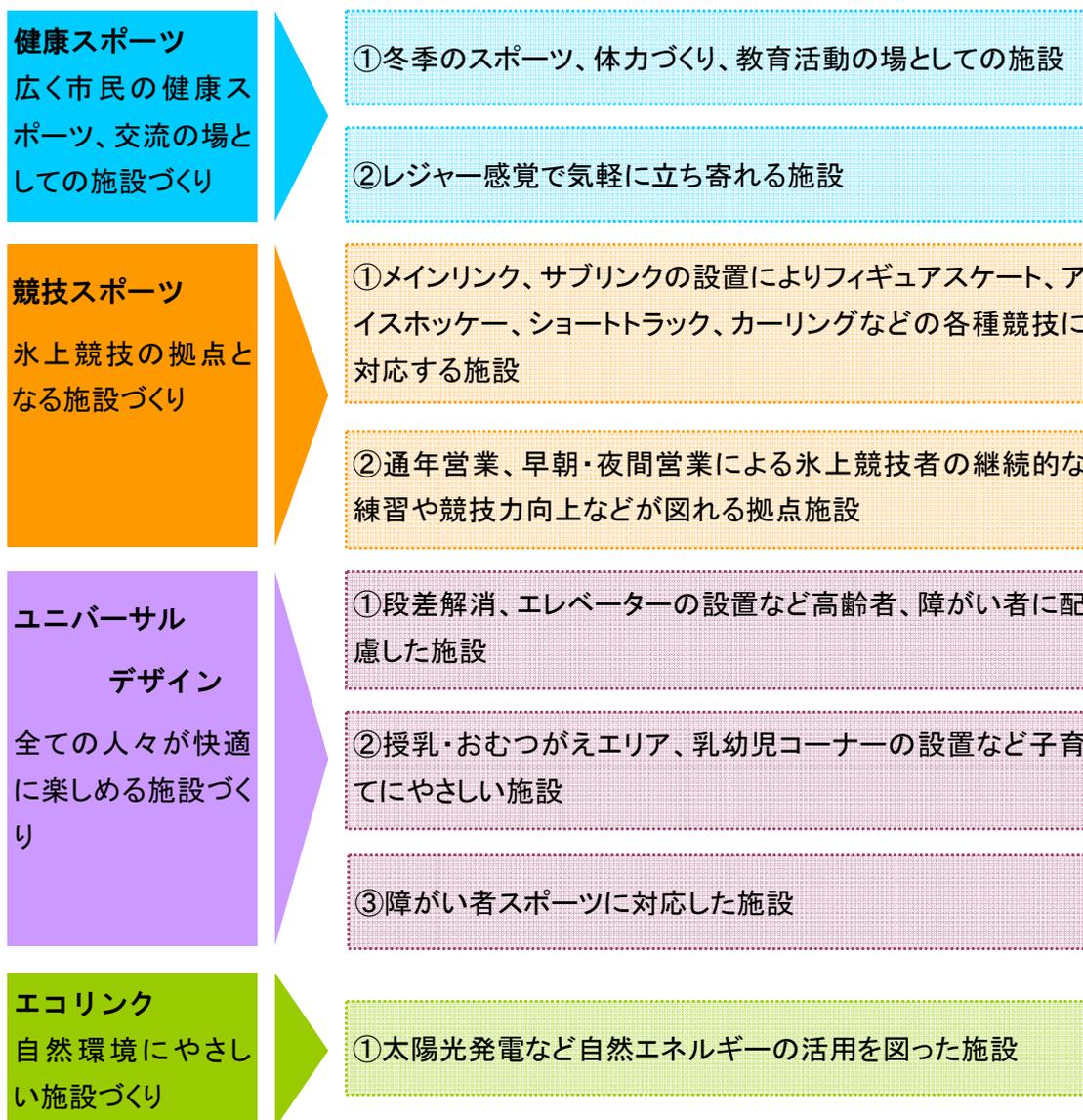
## 第2章 基本的な考え方

### 1. 整備の目的

冬季のスポーツ環境の充実や、氷上スポーツ競技者の練習環境の確保が望まれている本市において、市民の健康増進に寄与し、フィギュアスケート、アイスホッケー、ショートトラック、カーリングなどの氷上競技の普及・振興を目的とするとともに、スポーツを軸とした市民の交流、地域の活性化を促進し、氷上競技における日本海側の拠点施設として、スポーツ文化の醸成、市外からの交流人口の拡大を図るため、（仮称）新潟市アイスアリーナを整備します。

### 2. 基本理念

（仮称）新潟市アイスアリーナ整備の基本理念を以下のとおりとします。



## (1) 広く市民の健康スポーツ、交流の場としての施設づくり【健康スポーツ】

### ①冬季のスポーツ、体力づくり、教育活動の場としての施設

冬季の屋外スポーツ環境が不足する本市において、各種の氷上スポーツを楽しむことができる施設とし、市民の体力づくり、健康増進に役立てます。また、初心者向けの各種教室を開催するなど、だれでも気兼ねなく利用できるような事業展開を行い、氷上スポーツを身近なものとします。

また、小中学校をはじめとする教育機関とも連携し、教育活動への活用を図るほか、自治会、町内会や職場のレクリエーションなどにも提供します。

### ②レジャー感覚で気軽に立ち寄れる施設

氷上スポーツの競技者だけでなく、より多くの市民がレジャー感覚で気軽に立ち寄ることのできる施設づくりを行います。

スケート靴の貸し出しや飲食、休憩スペースの確保、駐車場や観客席の整備を行うほか、家族での利用も想定し、スケートができない小さなお子さんも遊べるコーナーを設け、誰もが楽しめる施設とします。

また、みるスポーツとしての氷上競技を楽しめる施設としての活用も図るため、各種競技会の開催や、リンクを使わない方でもアイスリンクの雰囲気を楽しめるような見学スペースの確保をします。

## (2) 氷上競技の拠点となる施設づくり【競技スポーツ】

### ①メインリンク、サブリンクの設置によりフィギュアスケート、アイスホッケー、ショートトラック、カーリングなどの各種競技に対応する施設

健康増進から競技力向上まで、様々な利用者の要求を満たすことができる施設整備を行います。一般的な屋内アイスリンクでは、フィギュアスケート、アイスホッケー、ショートトラックなどに対応できますが、本施設においては、これらの種目に加え、サブリンクを設置することでカーリングやフィギュアスケートのコンパルソリー練習などにも対応できる施設づくりを行います。

## ②通年営業、早朝・夜間営業による氷上競技者の継続的な練習や競技力向上などが図れる拠点施設

氷上スポーツも競技力の向上には年間を通じた安定した練習環境の確保が必要ですが、現在、本州日本海側においては、通年営業のアイスリンクが存在していません。このため、全国の類似施設では夏季でも競技者の早朝・夜間利用の予約が一杯になっているところが多く、本市において通年営業のアイスリンクを整備した場合、市内外の多数の競技者による利用が予想されます。

そこで本施設では、年間を通して一般利用の時間帯の前後に早朝・夜間営業を行い、競技者の継続的練習及び競技力向上に寄与します。

## (3) 全ての人々が快適に楽しめる施設づくり【ユニバーサルデザイン】

### ①段差解消、エレベーターの設置など高齢者、障がい者に配慮した施設

これからの体育施設は、全ての人々が快適に楽しめる施設づくりを行う必要があります。このため本施設では、段差をなくした施設の平面及び立面計画や、明快で容易な動線計画、エレベーターの配置、障がい者用駐車場や観客席の整備といったユニバーサルデザインに配慮した施設づくりを行います。

### ②授乳・おむつがえエリア、乳幼児コーナーの設置など子育てにやさしい施設

乳幼児と一緒にアイスリンクに訪れた保護者の利用が想定されますが、このような保護者のために、授乳・おむつがえのできるスペースや、乳幼児の遊び場などを設置し、子育て世代にも配慮した施設づくりを行います。

### ③障がい者スポーツに対応した施設

障がい者も安心して氷上スポーツに親しめるために、前述の【健康スポーツ】、【競技スポーツ】の場としての施設づくりを行います。

#### (4) 自然環境にやさしい施設づくり【エコリンク】

##### ①太陽光発電など自然エネルギーの活用を図った施設

東日本大震災の発生による電力不足の状態が続き、自然エネルギーの活用に注目が集まっています。アイスリンクでは、氷を維持するためのエネルギーを多く必要とするため、太陽光発電など自然エネルギーの活用、断熱効果の高い建材の使用、エネルギー消費の少ない製氷技術の導入、雨水のトイレ洗浄水や植栽散水等への利用、自然換気、自然採光などの工夫が求められます。この他、建物を低層にして周辺に与える影響を最小限にする、緑豊かな植栽を配置するなどの自然環境に配慮した施設づくりを行います。

### 第3章 整備予定地の概要

財政的負担及び用地取得に要する期間を考慮して、本市が保有する土地の中から、路線バスなどの公共交通機関や自家用車による交通アクセス及び施設の開設により周辺住民に与える騒音、渋滞などによる影響に配慮して、以下の土地に整備することとしました。

#### 1. 位置

整備予定地は、本市内にあって豊かな自然を残す鳥屋野潟の南部にあたる中央区鐘木地内に位置し、新潟市民病院東側に隣接する市有地で、敷地面積は約 10,000 m<sup>2</sup>を想定しています。

#### 2. 交通アクセス

JR 新潟駅から 7.2 km の距離に立地しています。

JR 新潟駅から路線バスの中央循環線、新潟市民病院行きを利用する場合は、東京学館前バス停が最寄りとなります。タクシーを利用する場合は、JR 新潟駅から約 15 分程度要します。自家用車を利用する場合は、新新バイパス女池インターチェンジから 2.3 km となります。

北陸自動車道、磐越自動車道、日本海東北自動車道の各高速道路から接続できる新潟中央インターチェンジにも近いため、市外、県外からも利用しやすい場所です。

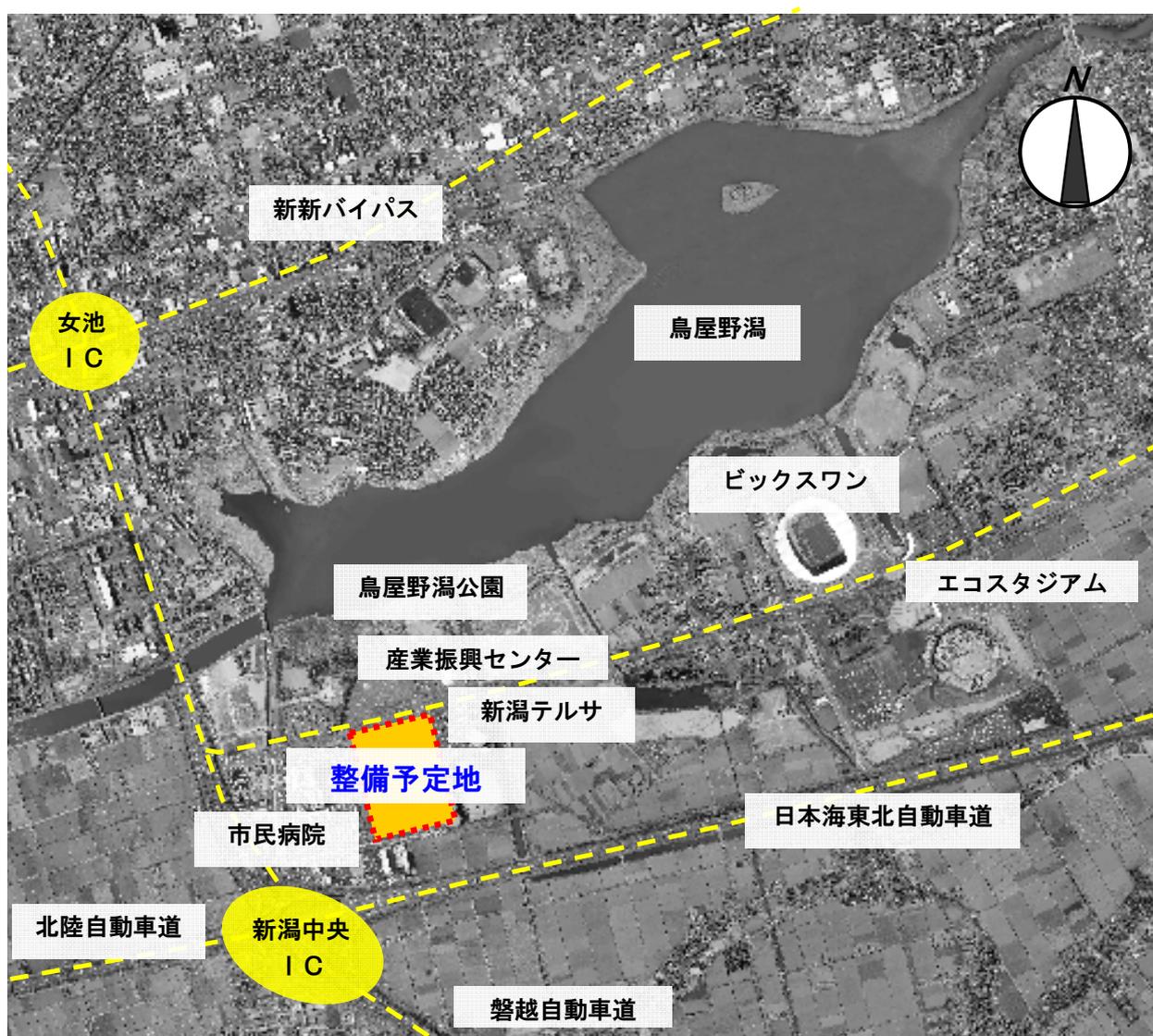
### 3. 周辺状況

予定地は「鳥屋野潟南部開発計画」のウェルネスゾーンに位置づけられ、市民の健康増進を図る本施設の機能は、同計画の内容と整合性が図られています。

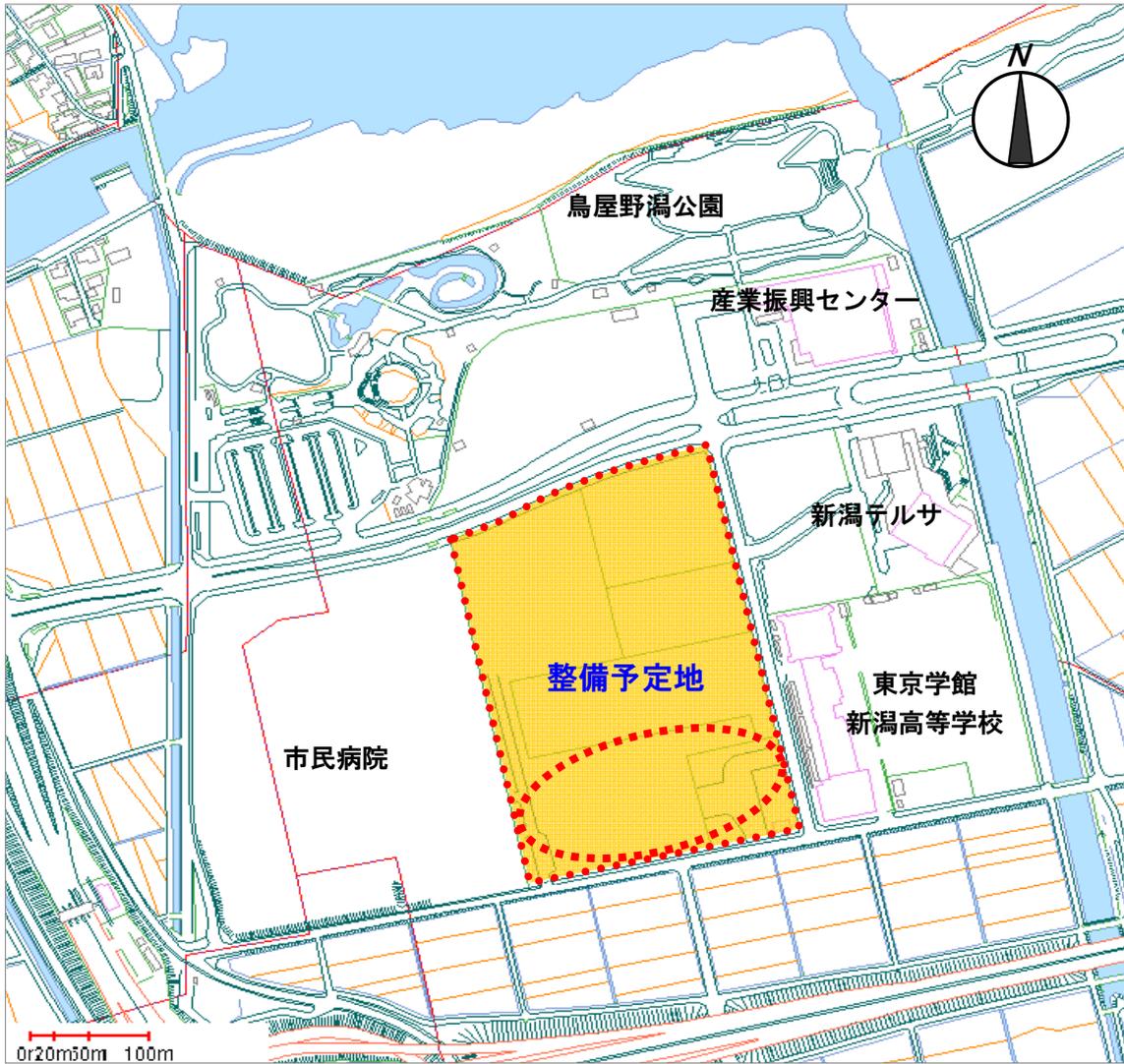
予定地の向かい側には東京学館新潟高等学校が位置し、近隣には市民病院のほか、新潟テルサ、産業振興センターといった施設があります。また、予定地を含む鳥屋野潟南部には、鳥屋野潟公園、食育・花育センター、ビッグスワン、エコスタジアムといった施設が充実し、今後も（仮称）新潟市動物ふれあいファームや（仮称）新潟市子ども創造センターの整備、消防局の移転などが予定されています。

このような周辺状況を生かし、他の公共施設との連携についても検討を進めていきます。

位置図



周辺図



## 第4章 営業形態と提供するサービス

### 1. 営業形態

#### (1) 営業期間

日本海側では唯一の、通年営業のアイスリンクとします。

春夏の利用については、一般の利用者数はピーク期間である秋冬に比べれば格段に落ちますが、競技団体においては、むしろ春夏からの定期的な練習や合宿による集中練習が欠かせず、東日本の大学等の競技部をはじめとするニーズ調査（資料1 競技団体ニーズ調査報告参照）においても、新潟へ遠征し練習の場所と時間の確保をしたいという要望が多数ありました。また、そのことから推測すると、近隣の各県各地域の社会人チームやクラブチームなど小規模のチームのニーズを加味すると相当な数の団体が本施設を利用すると考えられます。

#### (2) 営業時間

##### ①一般利用

冬季は午前10時から午後6時までを想定しています。

また、一般利用の時間帯は季節や曜日などの利用者数の変化に応じて、伸縮することとします。

##### ②早朝・夜間利用

一般利用の時間帯の前後に早朝・夜間利用の時間帯を設けます。また、予約の状況により24時間対応とします。

これは、アイスリンクの特性上、昼夜を問わず製氷設備や空調設備を稼働してリンクの状態を保つ必要があり、専用利用に貸し出すことで施設の効率的な活用ができるからです。

早朝・深夜の利用については、他施設の実績（資料2 類似施設調査一覧表参照）からも、その稼働率は非常に高く、各施設とも飽和状態であることがうかがえます。

利用時間と活動内容

分類	利用時間	活動内容
一般利用	冬季午前 10 時～午後 6 時を想定(季節、曜日により伸縮)	一般開放 学校の校外活動 各種教室
早朝・夜間利用	一般利用の前後の時間(予約状況により 24 時間対応)	競技団体の練習対応 各種教室

(3) 利用料金

①個人利用

個人利用については、大人 1,200 円程度を想定しています。料金は、年代による細分化を行います。また、回数券、シーズンパスといったリピート来場、生涯スポーツ活動を促す方策も検討します。

②専用利用

興行による利用か否か、アマチュアの利用か否かなどで区別を行います。以下に、一般競技団体の練習等による利用を前提にして記します。

利用料金

リンク	利用料金
メインリンク (30m × 60m)	1 時間あたり 20,000 円を想定
サブリンク (15m × 45m でカーリング 3 レーン)	1 時間あたり 1 レーンで 5,000 円を想定

③利用者による優遇

氷上スポーツの普及・振興のため、競技団体や学校の校外活動、部活動などに対する優遇も視野に入れて検討していきます。

## 2. 提供するサービス

### (1) 個人利用

本施設は、幼児から高齢者まで、年齢や障がいの有無にかかわらず、全ての人々が気軽にスケートを楽しめるための場の提供をします。

メインリンクが主な活動場所となりますが、サブリンクも開放し三角コーンなどを配置することにより、8の字滑走やステップの練習などスケーティング・テクニック向上の場としての活用も期待できます。

また、サブリンクは、幼児・子どもや高齢者、障がい者などが楽しくアイススケートを楽しめる場としても有効です。

### (2) 専用利用

本施設においては、個人利用に加えて、競技団体などによる練習、競技会の開催といった専用利用を想定し、その中には障がい者スポーツも含まれます。専用利用に対応するため、競技備品の貸し出し、放送機器の貸し出しなども実施します。

なお、現在、本市内の競技団体は少数となっていますが、今後は、団体発足に向けたサポートなども行い、段階的に利用者の増加を図ることも重要となります。

#### ①練習対応

専用利用の大半は競技団体の練習が主な活動となります。次に、通常の練習で想定する競技種目を示します。

想定する競技種目(通常の練習)

メインリンク	サブリンク
フィギュアスケート アイスホッケー ショートトラック アイススレッジホッケー	カーリング 車いすカーリング フィギュアスケートのコンパルソリー練習等

## ②競技会対応

競技会を開催する場合は、原則として全館貸し切りとします。以下に、競技会利用で想定する競技種目を示します。

想定する競技種目(競技会)

メインリンク	サブリンク
フィギュアスケート アイスホッケー ショートトラック アイススレッジホッケー	カーリング 車いすカーリング

## (3) 学校の校外活動

アイススケートへの興味への入口として、また競技人口の底辺の拡大を促すためにも積極的に校外活動を誘致します。校外活動は、平日の一般利用の時間内で対応し、1回の利用で最大100人程度までを想定します。

校外活動においても、サブリンクがあることで、クラス分けや、8の字滑走エリアなど、多様な使い方が可能となります。

## (4) 各種教室の開催

学校の校外活動誘致と同様に、アイススケートへの興味への入口として、また競技人口の底辺の拡大を促すためにも積極的に各種教室を開催します。

本市が行う教室は、あくまで、各種競技を含めたアイススケートへの導入段階です。このため、競技力が一定レベルに達すれば、地域の連盟主催の練習会、サークルや部活動への加入による競技団体などの専用利用に移行することとなります。この過程において、団体発足に向けたサポートなども行っていきます。

各種教室(例)

教室名	対象	概要
幼児教室	3歳～未就学児	ゲームや遊びを取り入れ、楽しみながらアイススケートに触れる教室。
初心者教室	小学生～成人	アイススケートの基礎から指導。
初級者教室	小学生～成人	曜日や時間を設定し、定期的、継続的に技術の習得を目指すコース。
アイスホッケー教室	小学生～成人	アイスホッケーの基礎教室。
カーリング教室	小学生～成人	カーリングをやってみたいという興味ある方への導入。

(5) 付帯事業

①貸靴の提供

アイスリンクにおいては、専用のスケート靴を保有していないレジャー感覚で気軽に立ち寄った利用者や、初心者、幼児、小中高生などを対象に、貸靴の提供を行う必要があります。

本施設においても、貸靴の提供を行います。貸靴数は、2,000足程度としますが、今後、さらに検討していきます。

②飲食・物販

利用者の利便性を高めるために、飲食・物販サービスを提供します。飲食においては、軽食程度の提供を想定しています。また、物販においては、防寒具などの販売を想定しています。

## 第5章 施設の構成と機能

### 1. ゾーニングと動線

利用者にとってわかりやすい案内表示、動線に配慮し、目的地への移動が容易に行われるような諸室の配置をします。

#### (1) 利用者エリア

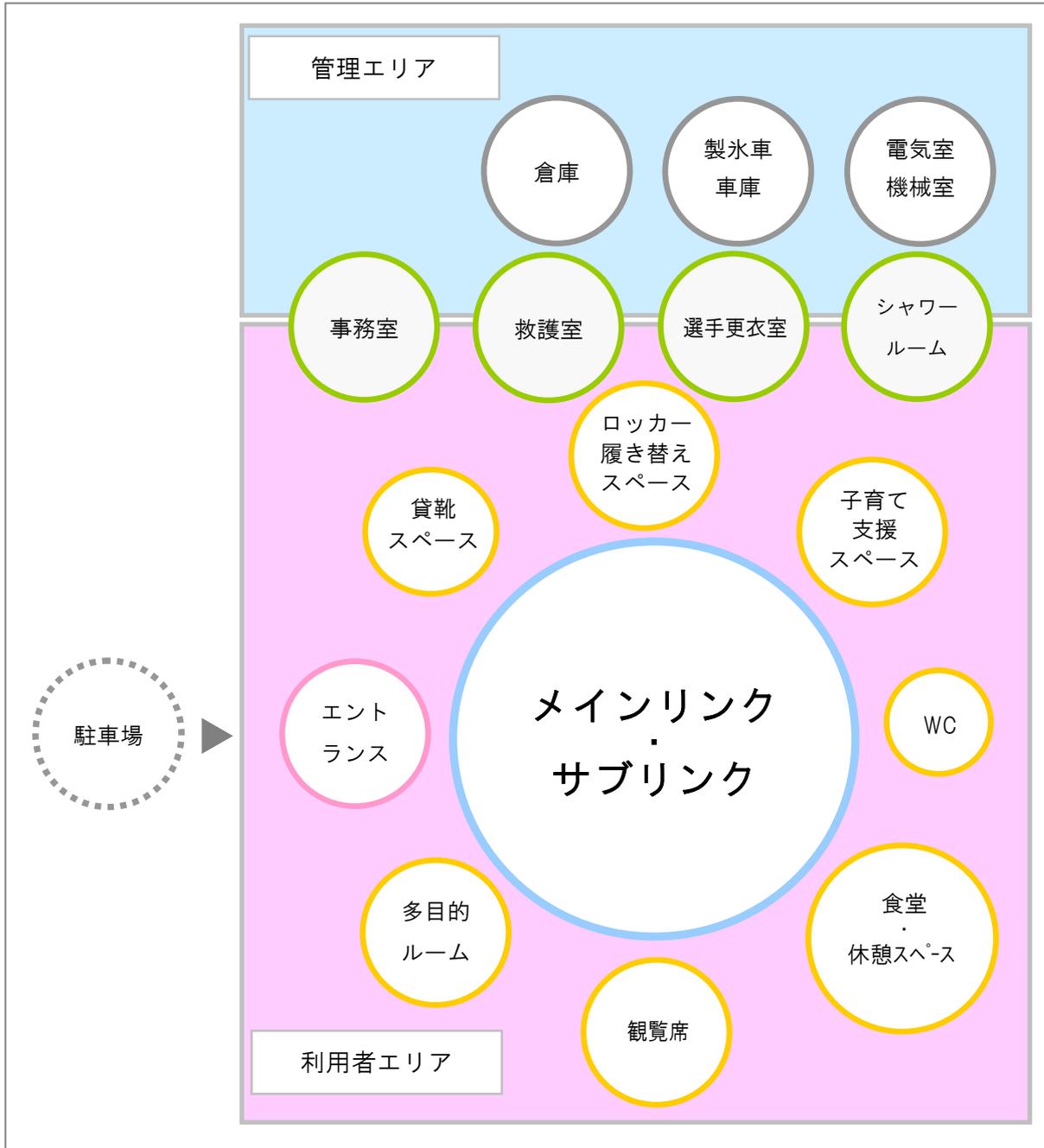
リンク利用者と、付き添い、見学のみの入場者の両者が、食堂、休憩スペースなどを共用できるように検討します。

また、滑走の様子を見学できるように、多目的ルームを配置します。この多目的ルームは、専用利用時や競技会時に選手の控室や役員室として活用できるようにし、またシャワールームへの動線にも配慮したゾーニングを検討します。

#### (2) 管理エリア

本施設は、特殊な設備、機械などの多い施設となります。このため、作業効率だけでなく、安全性にも十分配慮し、利用者が立ち入ることのできるスペースとできないスペースを分離します。

施設のゾーニング図



## 2. 屋内施設計画

### (1) 諸室一覧表

	主な諸室	内 容
利用者エリア	エントランス	玄関ホール、受付、物販スペース等
	多目的ルーム	スケートを利用しない人の見学スペース 競技会時には選手控室、役員室として利用 パーティションでの区分け式
	トイレ	一般用トイレと多目的トイレ 来館時用と滑走時用と2カ所設置 滑走時用はスケート靴のまま利用できるようにする
	貸靴スペース	2,000 足程度を想定
	ロッカースペース 履き替えスペース	小型コインロッカー 履き替え用ベンチ
	メインリンク	30 × 60m 国際規格
	サブリンク	15 × 45m(カーリング 3 レーン)
	食堂 休憩スペース	軽食程度の調理スペース 休憩と飲食スペースは兼用を想定
	子育て支援スペース	子どもの遊び場、授乳スペース
	観客席	最大 1,000 席程度 2 階・・・固定式 1 階・・・可動式
共通エリア	事務室	
	救護室	
	選手更衣室	複数の試合対応として 4 室
	シャワールーム	
管理エリア	製氷車車庫	製氷車 2 台分のスペース
	倉庫	競技備品、メンテナンス用具など
	電気室/機械室	
	延床面積	5,000～5,500 m <sup>2</sup>

## (2) 諸室の計画

### 【利用者エリア】

#### ① エントランスホール

玄関ホール、受付、物販スペース等からなるエントランスホールを設けます。

#### ② 多目的ルーム

エントランスホールとメインリンクの間に多目的ルームを設置します。メインリンク側はガラス張りにし、アイススケートを利用しない方が見学できるようにします。

また、自動販売機、テーブル、イスなどを設置してコミュニティスペースとしても活用できるようにします。さらに、可動式の間仕切りを導入することで、競技会時の役員室、選手の控室などや、部活動による合宿利用時のミーティングなどを行うスペースとしても活用できるようにします。

多目的ルーム



#### ③ トイレ

来館時用と滑走時用の2ヵ所に一般のトイレと多機能トイレを設置します。また、おむつがえ台を設置します。

リンクに近いところに設置する滑走時用のトイレ内には、ゴムマットを敷設し、スケート靴を履いたままの利用を可能にします。

#### ④貸靴スペース

レジャー感覚で気軽に立ち寄った利用者や初心者の利用、小中高校生の利用者は専用の靴を保有していないことが想定されるため、このような利用者に配慮して2,000 足程度の貸靴スペースを設置します。また、利用者の来館時の靴の収納も必要となります。

#### ⑤コインロッカー、靴の履き替えスペース

貴重品、冬季のコートやジャケット、女性客のバッグなどの収納を想定した、小型コインロッカー及び履き替え用ベンチを設置します。

コインロッカー、靴の履き替えスペース



#### ⑥メインリンク及び休憩スペース(周辺ゴムマット部分)

メインリンクは、国際規格である30m×60mとし、フィギュアスケート、ショートトラック、アイスホッケーが利用可能な施設とします。

また、アイスリンクの特徴として、リンク周辺フロアに排水設備が必要となります。通常、フロアにはゴムマットを敷いての営業となりますが、製氷時の水が溜まることがないように排水計画を設計時から組み込むことが必要です。

ゴムマットフロアは、ベンチを設置して休憩スペースとして活用します。

メインリンク及び休憩スペース



### ⑦ サブリンク

15m×45m（カーリング場3レーン）のサブリンクを設置します。

サブリンクは、カーリングやフィギュアのコンパルソリー練習などを実施できるだけでなく、競技会でのウォーミングアップ場や初心者向けのスケート教室等の開催など、フレキシブルに活用することができ、施設の使いやすさも大幅に向上します。

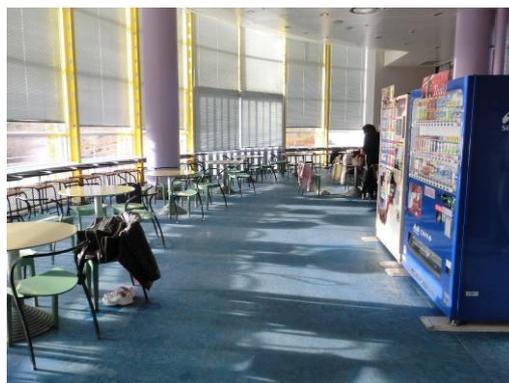
サブリンク



### ⑧ 食堂・休憩スペース

利用者の利便性を確保するため、軽食程度の提供を想定したスペースを設置します。本スペースは、休憩スペースと兼用とし、利用者同士の交流や情報交換の場としても活用できるようにします。

休憩スペース



### ⑨ 子育て支援スペース

乳幼児と一緒にアイスリンクに訪れた保護者の利用を想定し、子育て支援スペースを設置します。本スペースにはTVやマット、授乳エリアなどを設置します。

## ⑩観客席

本施設では、地域レベルの競技会の開催を想定していることから、観客席は固定式、可動式を含めて、最大1,000席程度とします。

### (a) 固定式観客席

本施設の2階に、固定式観客席を設置します。2階までの動線は、階段、エレベーター、スロープを想定しています。固定式観覧席数の座席数は、300席から500席を想定しています。また、ユニバーサルデザインに配慮し、車椅子用の観客席スペースを設置します。なお、観客席は1階の選手更衣室やバックヤード上部などを想定しています。

固定式観客席



### (b) 可動式観客席

メインリンク外周マット部分に可動式観客席を設置します。可動席は、壁面に設ける収納式及び移動式などが想定されますが、詳細は今後検討します。

可動式観客席



## 【共通エリア】

### ⑪事務室

スタッフの事務及び休憩スペースを設置します。また、受付や救護室、子育て支援スペースなどとの配置に考慮が必要です。

### ⑫救護室

アイスリンクでは、氷上でスポーツを行うことから怪我の発生率が高くなります。このため、救護室を配置が不可欠です。また、配置場所も常にスタッフがいる事務室と隣接させるなど、工夫が必要です。

### ⑬選手更衣室

各種競技会での利用を主目的とした選手更衣室を設置します。1日で複数の試合を行うことを考慮し、4つの選手更衣室を設置します。

### ⑭シャワールーム

選手更衣室や多目的ルームからの動線に配慮し、男女別の2ヵ所を設置します。

## 【管理エリア】

メインリンク外周マットの外側に、バックヤードを配置します。

### ⑮倉庫

競技備品やメンテナンス用具の収納をします。

### ⑯製氷車車庫

製氷車2台分のスペースを確保します。

### ⑰電気室、機械室

電気設備や製氷設備のスペースを設けます。

### 3. 屋外施設計画

#### (1) 駐車場・駐輪場

1日の最大利用者数を1,100人程度と想定し、利用者の回転率、自家用車の利用率などを掛け合わせ、台数は概ね、普通車100台、大型バス2台、自転車・バイク50台と想定します。なお、駐車・駐輪場の配置に際しては、障がい者用駐車場を確保し、全体的に安全でかつ利便性の高い配置計画・動線計画とします。さらには、周辺施設や外構、植栽と調和した施設となるよう配慮します。

## 第6章 整備及び管理・運営手法

本市では、「民間でできることは民間に委ねる」ことを基本として、行政責任の確保等に留意しながら、市民サービスの向上や行政運営の一層の効率化を図るとともに、地域経済の活性化の観点からも、公の施設の整備や管理・運営に、民間委託等を積極的に導入しています。

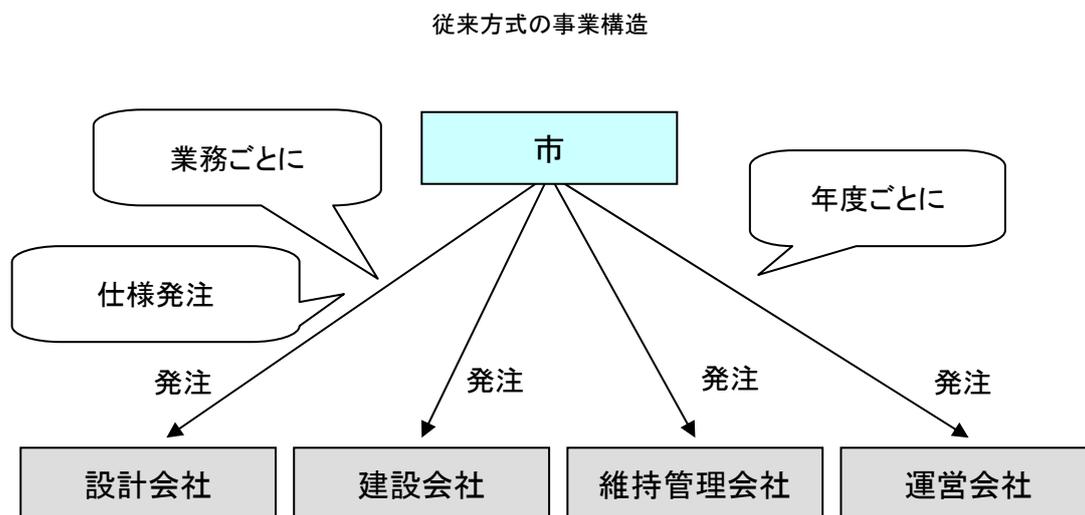
本施設の整備や管理・運営にも、以下のような検討を行っていきます。

### 1. 整備手法

本施設の整備に際しては、より効果的、効率的な整備が可能となるよう、主に従来方式とPFI方式を比較しながら、最適な手法を選定していきます。

#### (1) 従来方式

公共事業として従来から実施されている手法であり、公共が、設計、建設、維持管理・運営という各業務を個別に発注する方式です。公共性を担保しやすい発注形式である反面、年度ごとに発注しなければならず、毎年度、複数の契約手続きが発生します。また、発注方式は、各業務が細かく規定された仕様発注のため、業務に対する公共の意図が反映しやすい反面、民間事業者のノウハウが発揮されにくいという特徴があります。



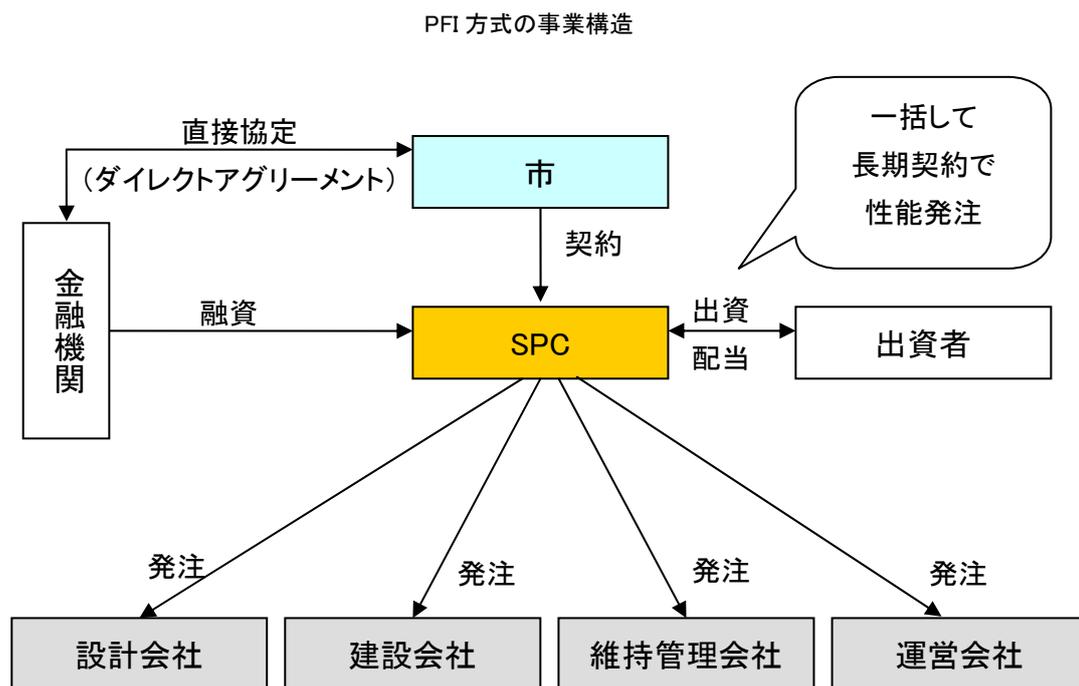
(参考:地方公共団体におけるPFI事業導入の手引き概要版、内閣府PFI推進室)

## (2) PFI方式

PFI (Private Finance Initiative) とは、民間の資金と経営能力・技術力を活用し、公共施設等の設計・建設や維持管理・運営を行う公共事業のひとつの手法をいいます。

施設の設計、建設、維持管理・運営の各業務と主に施設整備に係る資金調達を全て長期の契約として包括的に民間事業者に委ねる方式のため、運営面を最大限考慮した施設設計が可能です。施設の所有は、民間及び公共のどちらの場合も想定されます。発注方式は従来方式の仕様発注のように細かく仕様を定めない性能発注のため、各業務に民間事業者のノウハウが発揮されやすくなります。

また、資金調達については、設計、建設に必要な費用相当を民間事業者が設立する特別目的会社 (SPC) が金融機関等から調達することが一般的です。このため、公共が施設完成時に一度に支払いを行う従来方式と異なり、公共は民間事業者に事業期間にわたって延払いすることも可能となるため、財政負担の平準化効果を得ることもできます。



(参考: 地方公共団体におけるPFI事業導入の手引き概要版、内閣府PFI推進室)

従来方式とPFI方式の比較

手法	従来方式	PFI方式
概要	・設計、建設、維持管理・運営を個別に民間に委託、または直接実施	・民間事業者が施設の設計、建設、維持管理・運営、資金調達を包括的に実施 ・施設所有は、民間及び公共のどちらの場合もある
民間ノウハウ活用程度	低い	高い
発注方式	仕様発注	性能発注
契約期間	単年度	複数年度(10～30年)
契約方式	設計、建設、維持管理・運営を個別契約	一括契約
維持管理・運営方法	直営又は指定管理者	指定管理者
資金調達 (施設整備費)	公共	民間
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設計、建設、維持管理・運営の全てに公共に主導権がある</li> <li>・公共に経験が蓄積されている</li> <li>・公共が資金調達のため金利が安い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間ノウハウの発揮の余地が大きい</li> <li>・民間ノウハウ活用によりコスト削減が可能</li> <li>・財政支出の平準化が可能</li> <li>・維持管理・運営面を考慮した設計が可能</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間ノウハウの発揮の余地が小さい</li> <li>・初期投資では起債制限等から多額の一般財源が必要</li> <li>・リスクの多くを公共が負担</li> <li>・業務毎に分離発注となるため、設計、建設に一定の期間を見込む必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共の主導権は限定的</li> <li>・民間資金活用のため金利が高い</li> <li>・業務支援コストが必要</li> <li>・契約までに必要な手続きが多く、一定の期間を見込む必要がある</li> </ul>

## 2. 維持管理・運営手法

本施設の維持管理・運営手法は、直営方式及び指定管理者制度を比較しながら、最適な手法を選定していきます。

### (1) 直営方式

従来どおり、公共が直接、施設の維持管理・運営を行う方式です。受付や清掃、空調設備の管理などは、個別に業務を委託する場合があります。

### (2) 指定管理者制度

指定管理者制度は、地方自治法上の「公の施設」に対し、地方公共団体から指定を受けた管理者（民間事業者、NPO等を含めた法人・団体）が管理を代行する制度です。施設の管理者は指定管理者となりますが、最終的な責任は設置者である市にあるため、市は適切な監視と指導を行います。

指定期間は、通常は3～5年程度の複数年となり、PFI手法を活用する場合は、本市では施設管理の期間全体が指定期間となります。

なお、指定管理者制度の採用の検討にあたっては、民間事業者の創意工夫の最大限の発揮による提供サービスの向上効果、それに伴う施設利用者の拡大を期待し、施設の利用料金を民間事業者が収入として直接収受する利用料金制の可能性も検討していきます。また、その場合、単に営利を追及するような運営とならないように、十分に配慮します。

直営方式と指定管理者制度の比較

手法	直営	指定管理者制度
概要	・従来どおりの公共による 公共施設管理	・地方自治法上の「公の施設」に対し、地方公共団体から指定を受けた民間事業者等が管理を代行する制度 ・民間経営の発想やノウハウの活用などにより、提供サービスの向上と行政コスト縮減を図ることができる。
施設管理者	公共	指定管理者(最終的な責任は公共)
施設利用料の 収入としての収受	○	○(利用料金制)
利用料金の 決定・改定	○	○(公共の承認が必要)
業務期間	制限無し	3～5年(PFIの場合は事業期間)

## 資料 1

### アイススケートに関心のある団体へのニーズ調査

#### 1. 調査目的

本施設の利用が想定される団体に対して、本施設の運営に関する意見を収集した。

#### 2. 実施期間

平成 23 年 6 月下旬～7 月 15 日(金)

#### 3. 調査方法

以下の方法で調査を行った。

- ① 対象団体に電話連絡の上、「依頼書」及び「アンケート」をメール、FAX、又は郵送。
- ② 電話連絡先不明の団体には、メール又はFAXを直接送付。

#### 4. 調査対象団体

以下の団体にアンケートを送付した。

- 東日本都道府県のスケート部を保有する高校(7 校)
- 東日本都道府県のスケート部を保有する大学(73 校)
- 東日本各都道府県の競技種目別団体(55 団体)

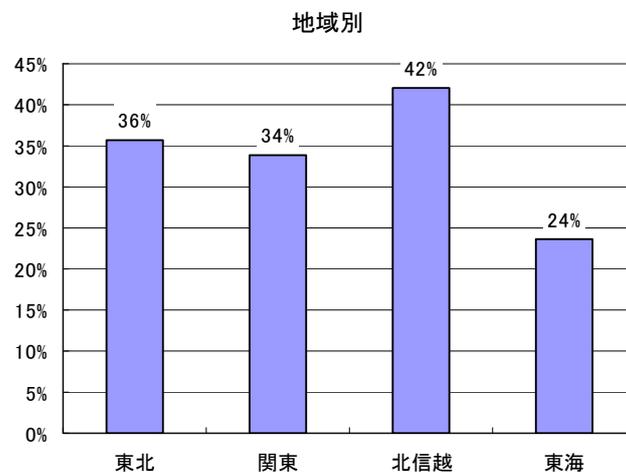
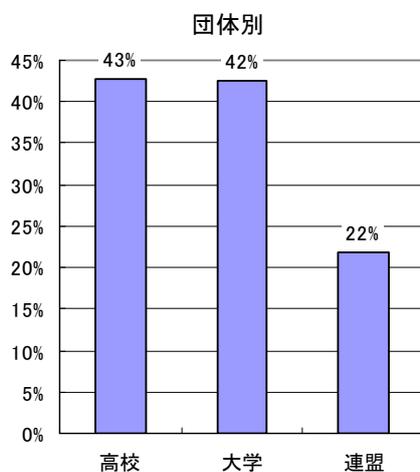
## 5. アンケート内容

Q1. アンケート回答者についてお答えください。

### ◆団体別及び地域別アンケート回収率

属性	送付数	回答数	回収率
高校	7	3	43%
大学	73	31	42%
連盟	55	12	22%
計	135	46	34%

属性	送付数	回答数	回収率
東北	28	10	36%
関東	71	24	34%
北信越	19	8	42%
東海	17	4	24%
計	135	46	34%



### ◆考察

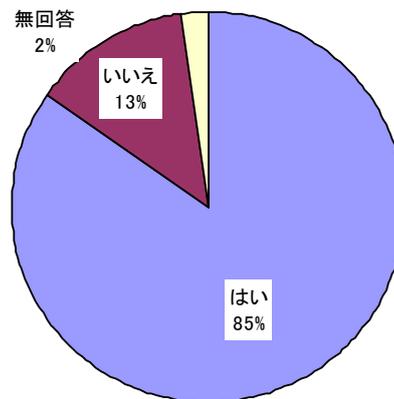
- ・ アンケートを全 135 団体に送付し、46 団体より回答を得た。アンケート回収率は 34% (46/135)であった。
- ・ アンケート回収率を団体別にみると、高校が 43%(3/7)と最も高く、ついで大学が 42% (31/73)であり、連盟は 22%(12/55)と最も低くなった。
- ・ アンケート回収率を地域別にみると、北信越が 42%(8/19)と最も高く、東北・関東は 30%を越えていた。一方で東海は 24%(4/17)と低かった。

以下、回答頂いた 46 団体の回答を対象とする。

Q2. 遠征や合宿を実施していますか。

◆総数

項目	回答数	割合
はい	39	85%
いいえ	6	13%
無回答	1	2%
計	46	100%



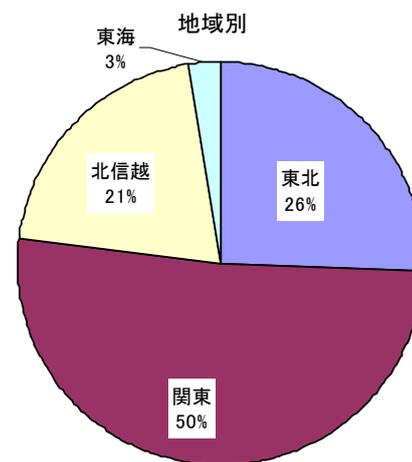
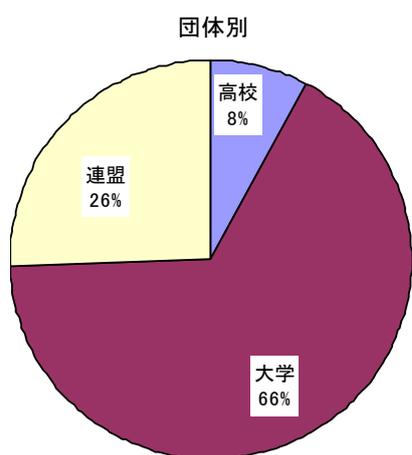
◆考察

- ・ 全 46 団体のうち、遠征や合宿を実施している団体は 39(85%)で大半を占めていた。

◆「はい」と回答した 39 の内訳

団体別	内訳	割合
高校	3	8%
大学	26	66%
連盟	10	26%
計	39	100%

地域別	内訳	割合
東北	10	26%
関東	20	50%
北信越	8	21%
東海	1	3%
計	39	100%



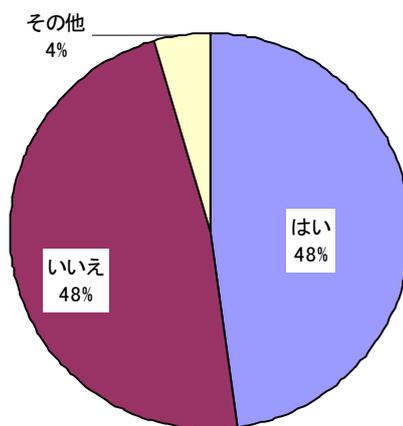
◆考察

- ・ 合宿を実施している 39 団体の団体別内訳は、大学が 26(66%)と最も多く、ついで連盟が 10(26%)であった。
- ・ 合宿を実施している 39 団体の地域別内訳は、関東が 20(50%)で約半数、東北 10(26%)及び北信越 8(21%)で約半数を占めていた。

Q3. 本施設に遠征してもよいと思いますか。

◆総数

項目	回答数	割合
はい	22	48%
いいえ	22	48%
その他	2	4%
計	46	100%



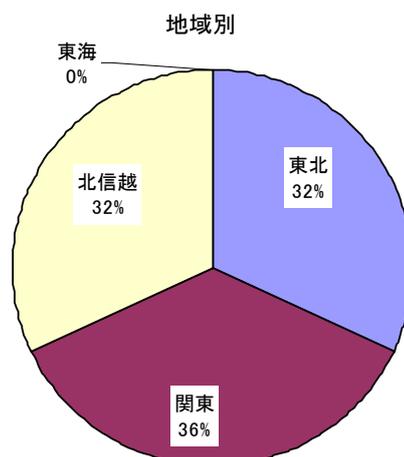
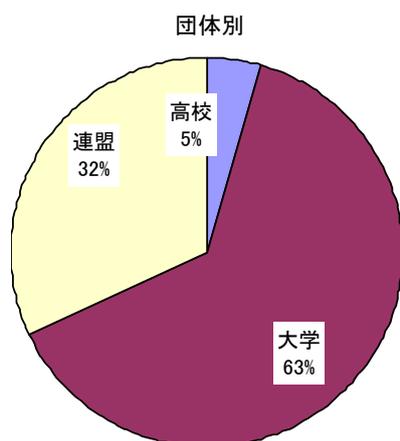
◆考察

- ・ 全 46 団体のうち本施設に遠征してもよいと回答した団体は 22 で、約半数であった。

◆「はい」と回答した 22 の内訳

団体別	内訳	割合
高校	1	5%
大学	14	63%
連盟	7	32%
計	22	100%

地域別	内訳	割合
東北	7	32%
関東	8	36%
北信越	7	32%
東海	0	0%
計	22	100%



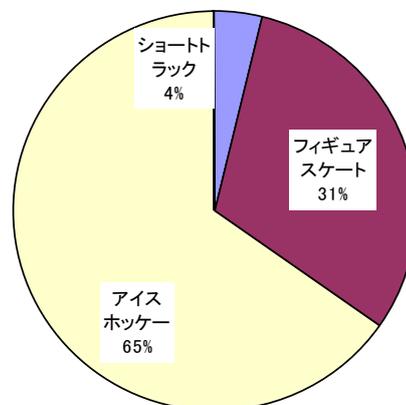
◆考察

- ・ Q3 で「はい」と回答した 22 団体の団体別内訳は、大学が 14(63%)と最も多く、ついで連盟が 7(32%)であった。
- ・ 合宿を実施している 22 団体の地域別内訳は、関東が 8(36%)と最も多く、ついで東北・北信越が共に 7(32%)であった。東海は 0(0%)であった。

以下、Q3で「はい」と回答した22の回答を対象とする。

Q4. どのような競技での使用を想定していますか。

競技	回答数	全体に占める割合
ショートトラック	1	4%
フィギュアスケート	8	31%
アイスホッケー	17	65%
カーリング	0	0%
その他	0	0%
計	26	100%



※母数が26だが、一部「いいえ」の人も回答している。

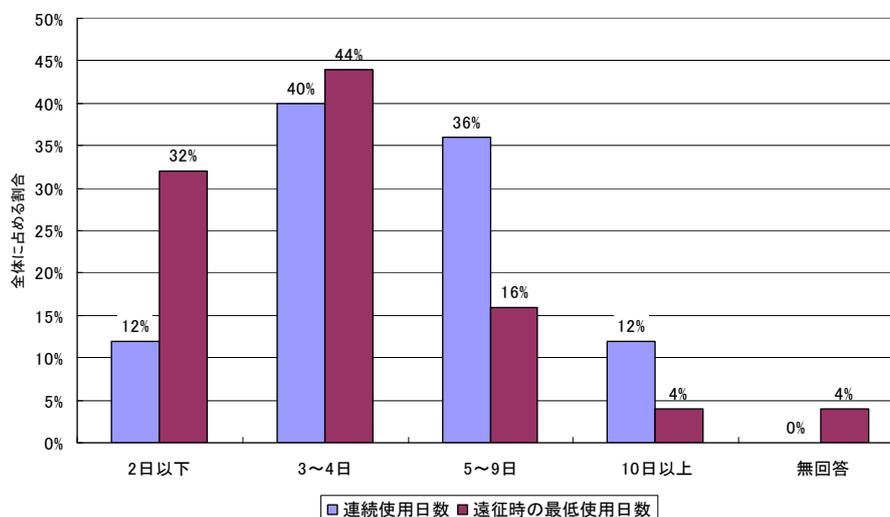
◆考察

- ・ 想定している競技は、アイスホッケーが17(65%)と最も多かった。
- ・ ついで、フィギュアスケートが8(31%)、ショートトラックが1(4%)であった。

Q5. 連続使用日数及び最低使用日数はどのくらいですか。

日数	連続使用日数		遠征時の最低使用日数	
	回答数	割合	回答数	割合
2日以下	3	12%	8	32%
3~4日	10	40%	11	44%
5~9日	9	36%	4	16%
10日以上	3	12%	1	4%
無回答	0	0%	1	4%
計	25	100%	25	100%

※母数が25だが、一部「いいえ」の人も回答している。



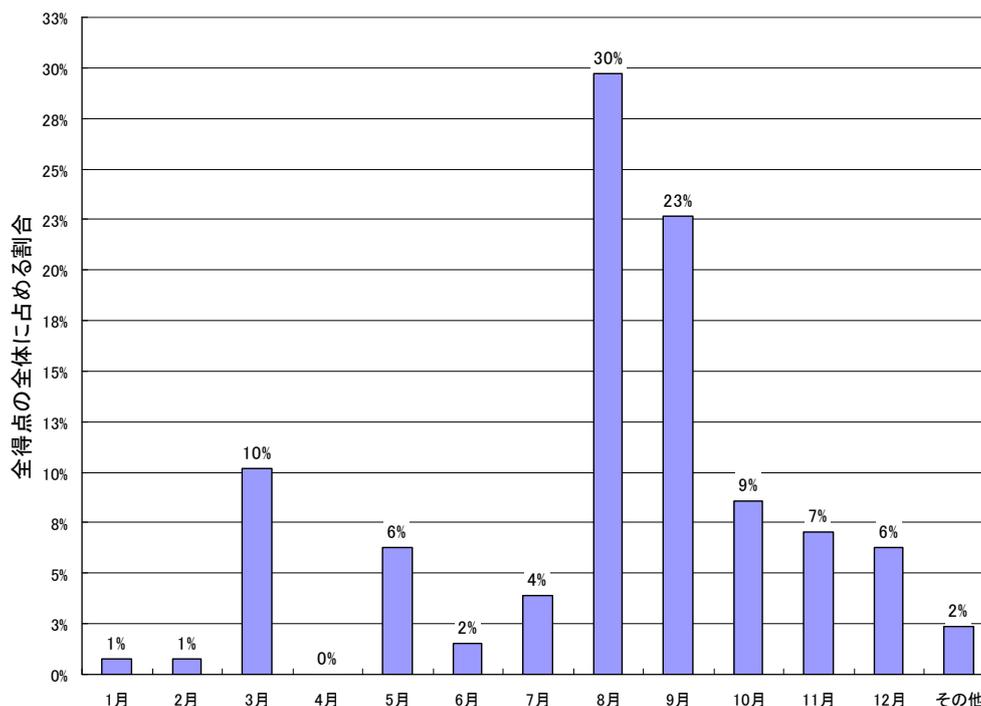
◆考察

- ・ 連続使用日数は、3～4 日が最も多く全体の 10(40%)を占めていた。ついで、5～9 日が 9(36%)であり、10 日未満という回答は総計で 22(88%)と大半を占めていた。
- ・ 遠征時の最低使用日数は、3～4 日が 11(44%)と最も多く、ついで 2 日以下が 8(32%)であり、連続使用日数と比較して短くなる傾向が見られた。

Q6. 希望する使用月は何月ですか。

月	得点	割合	月	得点	割合
1月	1	1%	8月	38	30%
2月	1	1%	9月	29	23%
3月	13	10%	10月	11	9%
4月	0	0%	11月	9	7%
5月	8	6%	12月	8	6%
6月	2	2%	毎月	3	2%
7月	5	4%	計	128	100%

※第一希望 3 点、第二希望 2 点、第三希望 1 点とし、各月の合計を算出した。



◆考察

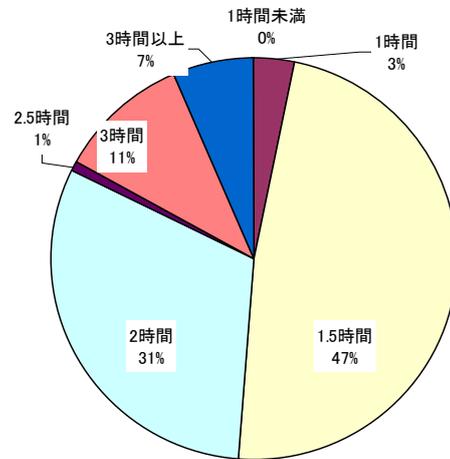
- ・ 希望する使用月は、8月が 38 点(30%)と最も高く、ついで 9月が 29 点(23%)であり、8月及び9月という中学・高校・大学の夏休みに相当する2ヶ月間で 67 点(53%)と全体の約半数を占めた。
- ・ その他、3月が 13 点(10%)、10月が 11 点(9%)、11月が 9 点(7%)、5月(連休の利用が主)及び 12月が 8 点(6%)と、他と比較して高くなっていた。

Q7. 希望する使用時間をお答えください。

①使用時間

時間	得点	割合
1 時間未満	0	0%
1 時間	4	3%
1.5 時間	59	47%
2 時間	38	31%
2.5 時間	1	1%
3 時間	13	11%
3 時間以上	8	7%
計	123	100%

※第一希望 3 点、第二希望 2 点、第三希望 1 点とし各月の合計を算出した。



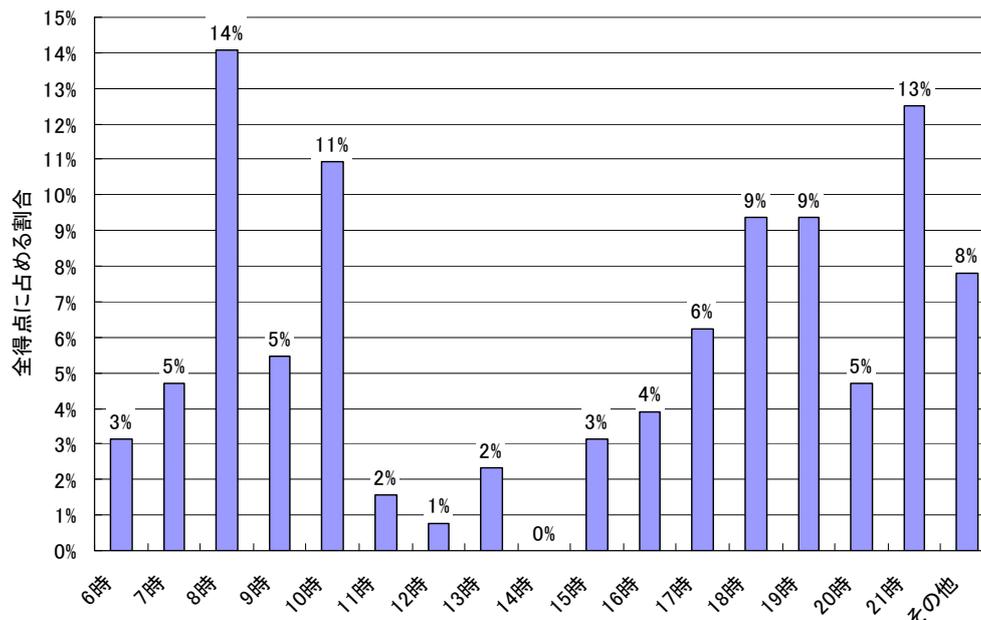
◆考察

- ・ 使用時間は、1.5 時間が 59 点(47%)と全体の約半数を占め、ついで 2 時間が 38 点(31%)であり、両者で 97 点(78%)と大半を占めた。その他、3 時間が 13 点(11%)と高くなった。

②使用時間帯

時間帯	計	割合	時間帯	計	割合
6 時	4	3%	15 時	4	3%
7 時	6	5%	16 時	5	4%
8 時	18	14%	17 時	8	6%
9 時	7	5%	18 時	12	9%
10 時	14	11%	19 時	12	9%
11 時	2	2%	20 時	6	5%
12 時	1	1%	21 時	16	13%
13 時	3	2%	その他	10	8%
14 時	0	0%	計	128	100%

※第一希望 3 点、第二希望 2 点、第三希望 1 点とし、各月の合計を算出した。



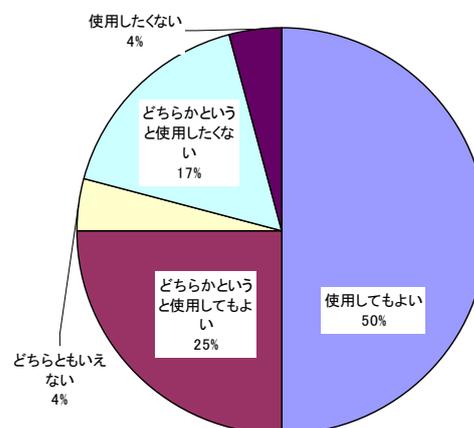
◆考察

- ・ 使用時間帯は、8時からが18点(14%)と最も高く、ついで21時、10時、18時・19時の順で高くなった。一方で、11時から16時までの時間帯や早朝深夜は低くなっていた。

Q8. 深夜・早朝の時間帯の利用についてお答えください。

回答	回答数	割合
使用してもよい	12	50%
どちらかというとも使用してもよい	6	25%
どちらともいえない	1	4%
どちらかというとも使用したくない	4	17%
使用したくない	1	4%
計	24	100%

※母数が24だが、一部「いいえ」の人も回答している。



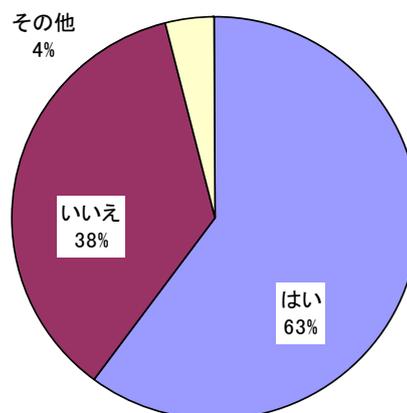
◆考察

- ・ 深夜・早朝の時間帯については、使用しても良いという回答が12(50%)と半数を占め、どちらかというとも使用しても良いという回答が6(25%)で、使用に前向きな回答は18(75%)と大半を占めていた。

Q9. 宿泊先から本施設への送迎は必要ですか。

回答	回答数	割合
はい	15	63%
いいえ	9	38%
その他	1	4%
計	24	100%

※母数が 24 だが、一部「いいえ」の人も回答している。



◆考察

- ・ 宿泊先から本施設への送迎が必要という回答は 15(63%)と過半数を占めた。一方で、送迎は必要ないという回答も 9( 38%)あり、約 4 割にのぼった。

資料2

類似施設調査一覧表

	1	2	3	4	5	6	7	
	名称	神奈川スケートリンク	川越スケートセンター	軽井沢風越公園アイスアリーナ	アクアリンクちば	日光霧降アイスアリーナ	愛・地球博記念公園 (愛称:モリコロパーク)	大阪府臨海スポーツセンター
運営概要	所在地	神奈川県横浜市	埼玉県川越市	長野県軽井沢町	千葉県千葉市	栃木県日光市	愛知県愛知郡	大阪府高石市
	設置主体	財神奈川体育館	(株)パティネ商会	軽井沢町	千葉市	栃木県	愛知県	大阪府
	運営主体	財神奈川体育館 (民営)	(株)パティネ商会 (民営)	風越パークオーオペレインション (指定管理者)	㈱レジャーインダストリー (指定管理者)	日光市 (直営)	財愛知県都市整備協会 (指定管理者)	南海ビルサービス㈱ (指定管理者)
	営業時間(一般)	10:00~18:00	冬季日・祝10:00~17:45 夏冬, 平日・休日で違い	平日9:00~16:15 (貸切優先) 休日13:15~16:15	平日9:00~18:00 土日祝9:00~18:00	10:00~15:30	10:00~18:00	平日11:30~17:30 日祝10:30~17:30
	(専用)	一般以外の24時間 (AM4~6なし)	一般以外の24時間	夜間23:00まで 早朝8:00から	一般以外の24時間	夜間21:00まで 早朝5:00から	夜間22:00まで 早朝8:00から	一般以外の24時間 (AM3:30~5:15なし)
利用者数計(A+B)	242,098人	63,254人	54,501人	119,850人	37,890人	111,183人(H21)	203,105人(H21)	
(A)一般利用	178,472人(73.7%)	57,801人(91.4%)	12,105人(22.2%)	113,003人(94.3%)	7,683人(20.3%)	93,117人(83.8%)	-	
(B)専用利用	63,626人	5,453人	42,396人	6,847人	30,207人	18,066人	-	
施設概要	延床面積	2,675㎡	概ね3,000㎡	4,271㎡	4,170㎡	6,073㎡	8,082㎡	概ね4,000㎡
	リンクサイズ	54m×27m	57m×26m	60m×30m	60m×30m	60m×30m	60m×30m	59m×27m
	サブリンク	27m×6m 初心者, 幼児向け	-	(隣接カーリングリンクあり)	-	-	外周リンク(200m) 長辺にカーリング2レーン	-
	観客席数	300席	200席	1,355席 (固定677、立見678)	500席 (固定200、立見300)	2,000席 (固定1,604、立見392、身障4)	1,111席 (固定811、身障4、可動296)	495席
	駐車場	35台(有料)	5台(無料)	-	440台(無料)	1,000台(無料)	1,946台(有料)	不明(有料)
	競技種目	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 一般滑走</li> <li>■ ショートトラック</li> <li>■ スピードスケート</li> <li>■ フィギュア</li> <li>■ アイスホッケー</li> <li>□ カーリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 一般滑走</li> <li>■ ショートトラック</li> <li>□ スピードスケート</li> <li>■ フィギュア</li> <li>■ アイスホッケー</li> <li>□ カーリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 一般滑走</li> <li>□ ショートトラック</li> <li>■ スピードスケート</li> <li>■ フィギュア</li> <li>■ アイスホッケー</li> <li>■ カーリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 一般滑走</li> <li>■ ショートトラック</li> <li>■ スピードスケート</li> <li>■ フィギュア</li> <li>■ アイスホッケー</li> <li>■ カーリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 一般滑走</li> <li>□ ショートトラック</li> <li>■ スピードスケート</li> <li>■ フィギュア</li> <li>■ アイスホッケー</li> <li>□ カーリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 一般滑走</li> <li>■ ショートトラック</li> <li>□ スピードスケート</li> <li>■ フィギュア</li> <li>■ アイスホッケー</li> <li>■ カーリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 一般滑走</li> <li>■ ショートトラック</li> <li>□ スピードスケート</li> <li>■ フィギュア</li> <li>■ アイスホッケー</li> <li>□ カーリング</li> </ul>
	諸室	選手控室	×	×	○	○	○	○
シャワー室		×	×	○	×	○	○(プールと兼用)	○
更衣室		○	○	○	×	○	○	○
事務室		○	○	○	○	○	○	○
貸靴コーナー		○(3,000足)	○(1,500足)	○(60足)	○(2,000足)	○(1,000足)	○(2,200足)	○(1,600足)
コインロッカー		○	○	○	○	○	○	○
休憩コーナー		○	△(×に近い)	×	○	×	○(食堂と兼用)	×
食堂		○	○(軽食)	×	○	○	○(休憩コーナーと兼用)	×
自動販売機コーナー		○	○	○(食料自販機)	×	○	○	○
一般利用料金(大人)	1,200円	1,200円	300円	1,000円	1,280円	1,400円	1,300円	
専用利用料金(1時間)	非公開	19:15~22:30 25,000円 上記以外の午前中 および22:45以降 22,000円	アマチュアスポーツ等の使用 20,000円 上記以外 40,000円	入場料徴収なし 20,000円 入場料徴収あり 93,000円	アマチュアで入場料徴収 なし16,100円 あり 26,600円 それ以外で入場料徴収 なし26,600円 あり42,600円	内リンク(全部)アマチュア平日 18,800円 外リンクアマチュア平日 17,000円	詳細な設定 例として競技会等以外大人 (1時間半)20,500円	
特記事項	基本的に大会の開催を想定せず	基本的に大会の開催を想定せず	専用利用に特化した形態	隣接ゴミ焼却施設余熱利用	専用利用に特化した形態	温水プール併設	体育館2面併設	
専用利用の状況	8月の予約状況 約90%予約済	8月の予約状況 ほぼ満杯	8月の予約状況 一般利用11:30~14:45 前後専用利用ほぼ満杯	8月の予約状況 深夜1~6時を除き 約90%予約済	8月の予約状況 ほぼ満杯	8月の予約状況 内リンク満杯 外リンク約20%予約済	8月の予約状況 6:15~11:15, 17:45~22:45ほぼ満杯	

資料 3

(仮称)新潟市アイスアリーナ設置に向けた検討経緯

西暦	平成	月	新潟市での動き	国内外の情勢
03	15	5	新潟アイスリンク閉鎖 業務の概要 昭和46年9月開設 10月～5月の間の季節型リンク(夏季はプール) スケート利用客は年間7万人	02ソルトレイク五輪より カーリング娘の活躍
		5	新潟市にスケート場をつくる会発足	
		6	市議会質問に対して 市としての方針 「民間施設の誘致が望ましく、市単独では難しい」	
		8	スケート場をつくる会より7万5千人分の署名が提出	
		9	新潟市議会に、スケート場をつくる会より請願提出 第1項 スケート競技を当面継続できる環境の整備(練習場所の確保)をすること。 第2項 すべての市民が気軽に利用できるスポーツ施設として、各種大会の開催も可能なスケート場の建設をすること。	
04	16	3	同請願 第1項 採択 第2項 継続審査	
		6	スケート場をつくる会より6万人分の署名が提出	
05	17	12	同請願 第2項 採択	
06	18	2		トリノ五輪 荒川選手、金メダル獲得 地元のリンク閉鎖が話題に
07	19	7	アイスリンク設置プランの募集 趣旨 事業の検討にあたり、市の支援策含めた、民設プランを募集。 4者が提案書を提出 提案結果 民設は採算面できびしい→公設民営で	
09	21	7	アイスリンク立地可能性調査の実施 アイススケート場の運営会社に委託	
10	22	2		バンクーバー五輪 浅田選手(中京大)、高橋選手(関西大)メダル獲得
		3	市議会へアイスリンク立地可能性調査の報告	
		10	市長のマニフェストに「アイスリンク設置の具体化」	
11	23	3	アイスリンク整備事業 基本計画策定の予算計上	

## 資料 4

### 「(仮称)新潟市アイスアリーナのあり方に関する有識者会議」開催要綱

#### (目的)

第1条 (仮称)新潟市アイスアリーナ基本計画を策定するにあたって、有識者、関係団体から広く意見を聴取し、多方面から検討することを目的として、(仮称)新潟市アイスアリーナのあり方に関する有識者会議(以下「有識者会議」という。)を開催する。

#### (開催期間)

第2条 有識者会議の開催期間は、(仮称)新潟市アイスアリーナ基本計画の策定日までとする。

#### (委員構成等)

第3条 有識者会議は10名以内で構成し、委員は次に掲げる者のうちから選任する。

- (1)学識経験者
- (2)競技団体
- (3)教育関係団体
- (4)その他、関連する専門的知識を有する者

2 委員の任期は、平成24年3月31日までとする。

#### (守秘義務)

第4条 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。

#### (座長)

第5条 有識者会議には座長1名を置き、座長は委員の互選によってこれを定める。

- 2 座長は、有識者会議の進行を行う。
- 3 有識者会議に座長代理1名を置き、座長があらかじめ指名する委員でもってこれに充てる。
- 4 座長代理は、座長が欠席の場合にその職務を代理する。

#### (会議)

第6条 有識者会議は、市長が召集する。

- 2 市長が必要と認めるときは、有識者会議に委員以外の者の出席を求め、その意見又は説明を聞くことができる。
- 3 有識者会議の会議は公開とする。

#### (庶務)

第7条 有識者会議の庶務は、文化観光・スポーツ部スポーツ振興課において処理する。

#### (その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、有識者会議の運営に関して必要な事項は、市長が別に定める。

#### 附 則

#### (施行期日)

この要綱は、平成23年6月1日から施行する。

資料5

「(仮称)新潟市アイスアリーナのあり方に関する有識者会議」委員名簿

(敬称略)

区 分	氏 名	役 職 等
学識経験者	橋 本 修	新潟大学名誉教授
競技団体	渡 部 沖 広	新潟市スケート連盟 理事長
	吉 田 六左エ門	新潟市アイスホッケー協会 会長
	原 野 司	新潟市アイスホッケー協会 理事長
	阿 部 和 彦	新潟市カーリング協会 理事長
教育関係	小 池 晃	内野小学校長
	北 山 尚	蒲原幼稚園長
設計関係	長谷川 美 香	有限会社ミカ ユニバーサルデザインオフィス 取締役社長
観光関係	横 山 裕	財団法人新潟観光コンベンション協会 企画・プロモーション 担当部長

資料6

「(仮称)新潟市アイスアリーナのあり方に関する有識者会議」開催概要

回数	日時	会場	内容
第1回	平成23年6月20日(月) 午後3時30分～5時	新潟市役所 白山浦庁舎 6-203 会議室	1. 部長あいさつ 2. 委員自己紹介 3. 座長の選任及び座長代理の指名 4. 議 題 (1)経緯の説明 (2)立地可能性調査 概要説明 (3)今後のスケジュール (4)その他
第2回	平成23年7月25日(月) 午後3時～4時30分	新潟市役所 本庁舎 執行部控室	議 題 (1)視察施設説明 (2)競技団体ニーズ調査報告 (3)基本方針(案)について (4)その他
第3回	平成23年8月23日(火) 午後2時～3時30分	新潟市役所 白山浦庁舎 6-203 会議室	議 題 (1)基本計画素案について (2)類似施設調査報告 (3)施設及び管理運営計画について (4)整備・運営手法について (5)その他
第4回	平成23年9月22日(木) 午後2時～3時30分	新潟市役所 白山浦庁舎 6-203 会議室	議 題 基本計画(案)について
第5回	平成23年10月31日(月) 午後2時～3時30分	新潟市役所 白山浦庁舎 6-203 会議室	議 題 (1)基本計画(案)に係る市民意見募集結果等について (2)その他